



骨粗鬆症と薬剤関連顎骨壊死について もっとよく知ろう

弘前大学大学院医学研究科歯科口腔外科学講座 教授

小林 恒

人の骨は加齢とともに弱くなります。特に女性は閉経後にホルモンの影響を強く受けます。このように骨が弱くなってしま病気を骨粗鬆症と呼びます。骨粗鬆症を放置すると骨折しやすくなり、転倒し骨折した場合、寝たきりで要介護状態となるなど寿命を短くなる危険な病気です。顎の骨も体の中の骨の一部分ですので骨粗鬆症の影響を当然受けています。歯科医院で撮影するパノラマエックス線写真から骨粗鬆症の前兆を知ることも出来ます。

骨粗鬆症は命に影響を及ぼす病気ですので、治療が必要であり、一般的に整形外科、内科、婦人科で治療が行われます。また、他の病気のために投与されたステロイド剤による骨粗鬆症が発症することがあり、これらの骨粗鬆症に対して骨吸収抑制薬が有効である一方、副作用として顎の骨が壊死する顎骨壊死という病気になることがあります。骨粗鬆症の場合に顎骨壊死が発生する頻度はとても低く、骨粗鬆症により骨折を起こして寝たきりになる可能性が高いため顎骨壊死の発生を考えても骨粗鬆症薬を飲むことのほうが重要です。しかし、顎骨壊死になるのは仕方がないと考えるのではなく副作用をなるべく起こさないように予防することが重要です。その方法は口腔内の感染の原因を出来るだけ少なくしておくことです。具体的には、骨吸収抑制薬投与を受ける前に歯科に行って口腔内を診査してもらい悪い歯を治療してもらうことと、投与中は出来るだけお口の中を清潔に保つように口腔ケアを継続することです。骨粗鬆症を予防して長生きしても、顎骨壊死となり食事が思うように出来ないと楽しみが少なくなるばかりではなくQOLを著しく低下させてしまいます。美味しい食事をいつまでも食べるために、健康で健口に過ごすために骨粗鬆症と薬剤関連顎骨壊死の関係をよく知り、口腔の状態を出来るだけよい状態に保つようにすることは、とても重要なことであると言えます。

略歴

1987年 3月 北海道大学歯学部卒業
1991年 6月 弘前大学医学部歯科口腔外科学講座 助手
1992年 7月 弘前大学医学部歯科口腔外科学講座 講師
2000年 4月 弘前大学医学部歯科口腔外科学講座 助教授
2007年 4月 弘前大学大学院医学研究科歯科口腔外科学講座 准教授
2015年10月 弘前大学大学院医学研究科歯科口腔外科学講座 教授 現在に至る